

中期目標の達成状況に関する評価結果

東京工業大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「各学科・専攻で、国際水準の卒業・修了資格について再検討し、各専攻の実情に応じて改善策を実施する」としていることについて、学士課程では日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を一つの判断基準とする再検討、大学院課程では修士課程学力試験等による国際水準を保証するプログラムの導入や修士・博士一貫国際大学院プログラムの実施、海外大学等との合同プログラムの導入等の多様な取組によって、教育の国際化や卒業生・修了生に対する企業からの高評価といった実績を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「コミュニケーション教育」について、学部及び大学院における英語教育の目標を英語による十分なコミュニケーション力を身に付けさせることとし、TOEICの点数を用いてクラス編成から到達目標の設定までを明確にすることにより、多くの学習機会を用意し成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期目標で「教育推進室を中心として、全学の教育戦略を策定する」としていることについて、当該大学が責任を持って一貫した方針の下で教育を実施するため、学長直属の教育推進室を設置し、教育理念や将来構想、全学的指針に関する事項、教育課程や授業科目の改廃、教育方法等の具体的事項の策定を学長のリーダーシップの下で、検討・実施していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学生の意見を大学運営に適切に反映させる方策を教育推進室が中心となって検討し、実施する」について、教育改善や施設作りにおいて、学生の意見を取り入れ、継続的に改善を図るために、平成16年度から継続して全学生を対象に「学勢調査」を実施し、その結果を活用していることは、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画で「既存の四大学連合複合領域コースをまとめて、理工学分野と医学、経済学、法学等の異なる分野を融合した、新たな学科及び専攻の設置等により、新たな知の分野の学力を備えた新しいカテゴリーの科学者・技術者を育成する方策を策定し、実施する」としていることについて、四大学連合複合領域コースは優れた取組であるが、平成19年度の新規参加学生数が大幅に減少していることについての原因の分析、対策の実施が十分になされていないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期目標「科学技術倫理、広角視野を備えた人材」について、「Art at Tokyo Tech」並びに世界文明センターによる文明科目及び研究会等を実施し、幅広い教養を身に付けさせるとともに、芸術的感性の涵養を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「学生の多様化に対応する教育」について、イノベーションマネジメント研究科において、学生に先端技術をビジネスに展開できる実践力を身に付けさせることを目指し、博士学位と修士学位を同時に取得可能としたデュアルディグリープログラムを実施していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「教育の情報基盤を整備する」について、学長の戦略的マネジメント組織の一つである情報基盤統括室の管理の下で、すべてのキャンパスを包括して研究・教育の情報基盤がハード、ソフト両面で整備されていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「学習支援及びキャンパスライフに関わるあらゆる支援を総合的・体系的に行う体制を構築する」について、学生同士のピアサポート制度や留学生へのコンサルティングサービス等の相談・助言体制を整備していることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「共同研究・委託研究の契約、共同利用施設の運営、リエゾン活動、技術移転、ベンチャー起業支援等の支援体制の強化を図る」としていることについて、産学連携推進本部を設置し、産学連携に係るすべての業務を総括的に処理する体制を整備したことにより、受託研究・委託研究や特許料収入等の実績が増加したことは、優れていると判断される。
- 中期計画「国際水準の研究や境界・学際領域の最先端研究を重点的かつ効率的に推進するための研究プロジェクトを専攻・研究科の枠を越えて容易に組織できるシステムを策定し、実施する」について、平成17年度に統合研究院を設置したこと、及び部局・専攻等の既存の教育研究組織の枠組みを超えた研究推進のためのバーチャルな横断的組織としてイノベーション研究推進体を設置したことは、質の高い研究活動に結実している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「進化型研究組織への変革を図るためのロードマップを、各部局等が実情に応じて策定する」としていることについて、学長直属の研究戦略室及び産学連携推進本部を設置し、全学的立場で研究ポリシーや産学連携ビジョン、知的財産ポリシーの策定から実施に至る戦略体制を整備したことにより、これを踏まえて各部局で目標達成のためのロードマップを作成して研究を推進していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「研究面における社会との連携を組織的・戦略的に推進するために「産学連携推進本部」を中心として、COE とともに、その他の社会ニーズのあるプロジェクト、外部資金を獲得できるプロジェクトを強力に推進する」について、研究面における社会との連携を組織的・戦略的に推進するために産学連携推進本部を中心として活発な活動を行っているが、その活動を国際的にするために国際的産学官連携方針を制定し、当該本部の体制を整備したことにより、米国バテル記念研究所との連携、米国シリコンバレーの連絡事務所設置等という具体的な成果を上げていることは、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 附属図書館に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「附属図書館に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標「アジア地域との国際交流を強化拡大する」について、平成17年度国際室に海外拠点運営室を設置してアジア地域に重点を置いて海外オフィスの開設に努め、タイ、フィリピン、北京に海外オフィスを開設したことにより、ここを拠点に連携大学院コースの開設（タイ）、衛星及びインターネットを利用した講義の配信（タイ）、サマープログラムの実施（フィリピン）、大学院合同プログラムの実施（北京）等の活動の展開や活発な留学生獲得活動及び面接につながっていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「学内外の学術情報流通基盤機能の整備・充実・強化を図る」としていることについて、学内の学術研究論文等の一元的な蓄積・管理・発信を目的として

T2R2 システム等を整備、運用し、教員自身による学術研究論文等のデータ登録から検索、利活用までを容易なシステムとしていることは、各種サービスにおける合理化、効率化等が図られ、学術情報の発信や活用を行っているという点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「教育面では『社会人教育、産官学人事交流、学界活動等を通して、地域社会も含めて世界に情報発信・啓蒙活動の促進を行う』」について、地元の大田区産業振興協会と協力して「東京工業大学技術交流セミナー」を継続して実施し、地域産業との連携・交流による社会人教育の機会を提供している活動は、地域との連携や貢献という点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「先導的電子図書館システムを充実させ、学内及び国内外に対する双方向の情報流通サービスの拡大及び効率化を図る」について、「東京工業大学キャンパス共通認証・認可システム」とリンクさせ、適切な個人情報の管理、情報セキュリティポリシーの遵守、学内資源の効率的利用を行っていることは、特色ある取組であると判断される。